

第6学年*組 国語科学習指導案

指導者 鈴木 久徳

1 単元 作家と作品をかかわらせて読もう「宮沢賢治」

2 目標

- 宮沢賢治の生き方や考え方に関心を持ち、すすんで伝記を読んだり作品を読んだりすることができる。
- 作家の生き方や考え方や作品をかかわらせながら、読み広げたり深めたりすることができる。
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、新学習指導要領の第5学年及び第6学年の「読むこと」の指導事項オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」に関連する。単元のねらいは、宮沢賢治の伝記の読解をもとにその考え方や生き方をとらえ、賢治の作品とかかわらせながら、自分の考えを広げたり深めたりしていくことである。

また、学習指導要領の「読むこと」の指導事項カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」に関連して、本単元を読解と読書活動を統合した学習単元として構成し、児童の学習意欲を高め、さらに読書活動の充実も図りたいと考える。目的に応じて賢治の作品を選んで読書し、比較して読むことのおもしろさを実感するという単元構成でねらいに迫りたい。

教材文「宮沢賢治」は、導入・展開・結びの構成になっており、文章も比較的平易で、賢治の行動を追いつながりながらその一生をたどることができる。賢治の理想とする世界観は教材文の中に様々な表現で書かれているが、児童は理想に向かって燃え続けた賢治の生き方や考え方がどのように作品に反映されているか意識して読んだり、作者や友達の考えと自分の考えを比較して読んだりすることで、主体的な読みを展開していくことができる。6年生も半ばを過ぎ、人間の生き方や考え方、その人の個性などに目を向ける児童が現れるこの時期、作者を感じながら自分の考えを深める読書の楽しさを実感させることは、読書活動の幅を一層広げることにつながると考える。

(2) 児童の実態 (在籍*名)

本学級の児童は、読書が好きな児童が多く、読書の時間や休み時間などにすすんで本を読む姿が見られる。しかし、伝記や説明文を読んでいる児童は少なく、物語文などのフィクションに偏りがちである。

1学期の物語教材「ヒロシマのうた」の学習では、人物の心情の移り変わりを叙述をもとにして読み取ったり、中心人物が事件や出来事によってどのように変容したかを一文に表すことで物語の主題を考えたりする活動に取り組んできた。しかし、文章から求められた情報を読み取る力の個人差は大きく、人物の心情を表す描写や会話文を見つけ出したり、その心情を自分なりの言葉で表したりすることについて苦手意識をもっている児童も少なくない。そこで、グループでの話し合いにおいて、それぞれが根拠となる叙述を示しながら考えを交流しあう機会を設けることで、自分では気がつかなかった考え方や同じ叙述でも異なる考え方があることに気付くことができた。

意識調査からは、話し合いの大切さは理解しているが、自分の考えをうまく表現できないと考えている児童も多く、話し合いの前に自分の意見を明確にしておくなどの手立てが必要である。

(調査人数*人 *月*日実施)

【教師から見た実態】 A:十分満足できる B:おおむね満足できる

1 教材文の叙述から、人物の心情をとらえることができる。

A: *人 B: *人

2 読み取ったことから、物語文の主題をとらえることができる。

A: *人 B: *人

【意識調査から】

1 自分の考えを分かりやすく文章に表すことができますか。

はい: *人 いいえ: *人

2 友だちの意見を正しく理解することができますか。

はい: *人 いいえ: *人

3 話し合いをしながら学習することは役に立つと思いますか。

はい: *人 いいえ: *人

(3) 指導観

本単元では、教材文「宮沢賢治」を“宮沢賢治を題材にした説明文”と考えて読み取りを進めていく。即ち、著者（西本鶏介氏）がとらえた宮沢賢治像を、読み手に説得力をもって伝えるための文章として教材文を位置付けるのである。そして、「雨ニモマケズ」などの賢治の様々な作品や激動の生涯を読み手に示しながら宮沢賢治の願いや理想に迫っていく本教材は、前学年で「注文の多い料理店」を学習して宮沢賢治に馴染みのある児童たちにとって大いに説得力があり、納得させられるものであると言ってよい。

しかしながら、教材文を鵜呑みにすることで宮沢賢治という作家を十分に理解したと考えるのは安易である。そこで、本単元の指導では、様々な宮沢賢治作品を読み比べながら、作品に込められた賢治の思いを自分なりに読み取り、小グループやクラスで交流しながら読みを深めていくことで、児童それぞれが宮沢賢治という作家の人物像について自分の考えをもてるようにする。そして、教材文に述べられた宮沢賢治像と比較しながら、教材文の論理性・整合性に対して検証する力を育成していきたい。

そして、単元のまとめとして、宮沢賢治の作品から一つ選んでブックポスターをつくり、「宮沢賢治展」を行う。教材文や様々な宮沢賢治作品から読み取った賢治の生き方や考え方を踏まえて、各自が選んだ作品についてブックポスターを作る。ここでは、心情や場面についての描写など、優れた叙述について自分の考えをまとめることを意識した指導をすることで、作品の紹介や解釈にとどまらず、自分なりに作品を評価する力を伸ばしたい。

また、本単元では、読書活動との関連を図るために、単元に入る前から宮沢賢治の様々な作品を読ませている。その際、作品を読んだ感想以外にも、物語の主題に迫るために「物語を一文で表す」という活動にも取り組み、その成果を朝のスピーチなどで交流している。このことにより、作家と作品をかかわらせて読むという態度を養い、今後の深まりのある読書活動につなげていきたい。

(4) 研究テーマ「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」との関連

ある作家の様々な作品を読み、その人の人間像をとらえていくという「読み」の過程において、他者の存在は重要である。自分とは異なる仲間の読みを聞き、自分の読みを仲間に伝えることにより、自分の読みの妥当性を確かめたり、修正したりする。こうした「読み」の交流は、文章をさらに深く読み直すという行為につながっていく。

例えば、作品に込められた宮沢賢治の思いを考えさせる活動では、素朴な感想のような意見から、作品中の叙述を根拠として示した意見、他の作品のテーマと関連させた意見まで様々な意見が予想される。そこで、自らの意見をより宮沢賢治という作家の生き方や考え方に迫るような意見に高めていくために、仲間との交流を通して自分の読みを修正していくのである。

したがって、子どもたちがそれぞれの読みを互いに交流しあう際には、自分の意見をノートなどに書いてから話し合わせたい。なぜなら、自分の意見を意図的に書かせることで、読みを明確にしたり、他者に意見を伝えるために自分の意見を読み直したり、交流による読みの深まりを記録したりすることができるからである。

4 指導と評価の計画（15時間扱い）

次	時間	学習活動・内容	評価の観点	評価規準 おおむね満足できる状況（B）
一	1	・教材文「宮沢賢治」を通読して初発の感想をまとめ、学習の見直しをもつ。	関	・宮沢賢治の生涯に関心を持ち、これまでに読んだ作品と関連付けて感想をまとめている。（発言・ノート）
	2	・教材文から、著者が宮沢賢治像をどのような人物として結論付けているのかを考える。	読	・導入と結びの部分の叙述に注目して、著者の考えをまとめている。（発言・ノート）
二	3 4 5	・教材文を読んで、賢治の行動や起こった出来事、賢治の願いや理想について年表にまとめる。	読	・教材文の叙述に即して、年代順に賢治の行動や出来事を年表にまとめている。 ・年表と関連付けながら、賢治の願いや理想が表れている叙述を抜き出している。（観察・ノート）

	6 7	<ul style="list-style-type: none"> 教材文で紹介されている作品には、どのような賢治の思いが込められているかについて、著者の考えを読み取る。 「雨ニモマケズ」に込められた賢治の思いについて考え、著者が教材文中で述べている賢治の願いや理想と比較する。 	読	<ul style="list-style-type: none"> 著者がそれぞれの作品に込められた賢治の思いをどのように述べているかを、教材文の叙述をもとにまとめている。 「雨ニモマケズ」に込められた賢治の思いを読み取り、著者の考えと比較しながら検証している。(発言・ノート)
	8 9 10 本時	<ul style="list-style-type: none"> 課題作品を読み、それぞれの作品に込められた賢治の思いについて、自分の考えをまとめる。 それぞれの作品に込められた賢治の思いを比べて、宮沢賢治の理想や願いと作品とのかかわりについて話し合う。 	読	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの作品に込められた宮沢賢治の思いを、作品の叙述や主題を基に考えている。(ワークシート) 自分の考えを根拠を明らかにしながら話したり、友達の意見と比較したりしながら話し合っている。(観察・ノート)
	11	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの宮沢賢治像をまとめ、著者の考えと比較する。 	読	<ul style="list-style-type: none"> 教材文及び様々な作品に込められた思いをもとに、自分なりの宮沢賢治像をまとめている。 著者が述べている宮沢賢治像と自分の考えとを比較し、教材文の内容について検証している。(発言・ワークシート)
三	12 13 14	<ul style="list-style-type: none"> 「宮沢賢治展」に展示するブックポスターを作る。 	関	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ作品のあらすじや感想、作家と作品のかかわりなどについてブックポスターにまとめている。(ブックポスター)
	15	<ul style="list-style-type: none"> ブックポスターを互いに読み合い、成果を分かち合う。 	話・聞	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の発表に関心をもって聞いたりしている。(観察・発言)

5 本時の学習

(1) 目標

宮沢賢治の四つの作品の叙述から賢治の理想や考え方を読み取り、それぞれの意見を交流しながら自分の考えを深めることができる。

(2) 準備・資料

ワークシート 掲示用短冊

(3) 展開

◎は評価

配時	学 習 活 動 ・ 内 容	教 師 の 支 援 と 評 価
3	1 本時の課題を確認する。 宮沢賢治の作品にこめられた賢治の思いや願いについて話し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書やノート、ワークシートなどのこれまでの学習を基にして話し合うことを確認する。
5	2 教材文で述べられている宮沢賢治の思いや願いについて確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までにまとめた賢治の生き方や考え方を振り返り、本時の課題に対する意欲を高める。
20	3 四つの課題作品ごとにグループを作り、それぞれの作品にこめられた宮沢賢治の思いや願いについて話し合い、意見を提示する。 ①「雪渡り」グループ <ul style="list-style-type: none"> きつねの子どもや人間の子どもの純粋な心の素晴らしさ。 人間が自然と心を通わせることの大切さ。 ②「どんぐりと山猫」グループ <ul style="list-style-type: none"> 自分と他人とで、偉いとか優れているとか比べ 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習までには、児童全員が課題作品を読み、自分の意見をワークシートに記入しておく。 自分の意見の根拠として、作品中のどんな叙述や出来事から宮沢賢治の思いや願いを読み取ることができるかを示しながら話し合う。 教材文で述べられている賢治の思いや願いにある言葉を引用して意見を述べてもよいことを伝える。

	<p>ることの愚かさ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人からは評価されなくても、見栄を張らずに謙虚に生きることの大切さ。 <p>③ 「オツベルと象」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物を大切に思わず、自己中心的な生き方をする愚かな人間にはいつかしっぺ返しがある。 人間が自然と心を通わせることの大切さ。 <p>④ 「よだかの星」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の願いを遂げるために力強く前進していくことの大切さ。 生きているものは、他のだれかの命を奪わなければ生きていけないという悲しさ。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考になる意見や自分と異なる意見は、友達の考えとしてメモを取らせ、自分の読みを修正しながら深めていけるよう助言する。 それぞれのグループから出た意見は、作品ごとに色分けした短冊に書いて提示する。 グループの意見は一つに集約せず、異なった意見が出た場合には、複数の意見を出してもよいことを伝える。 黒板には、教材文から読み取った賢治の願いや理想をいくつか提示しておき、それぞれの作品に込められた賢治の思いがどれにあてはまるかを類型化しながら提示する。
15	<p>4 各班から出た意見について、学級で話し合う。</p> <p>(1) 各班から出た意見が、教材文にある賢治の願いや理想のどれにあてはまるかについて、妥当性を検討する。</p> <p>(2) 宮沢賢治の生き方や考え方に対して、自分の考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各班で類型化した意見について、賛成や反対、付け足しなどの意見を出し合いながら話し合うよう助言する。 事前に児童それぞれの考えを把握しておき、必要に応じて教師から指名する。 様々な作品に共通して表れている宮沢賢治の思いに注目しながら、賢治の人間としての生き方や考え方に迫れるよう助言する。 ◎ 教材文で示された賢治の生涯や、様々な作品に込められた賢治の思いと関連付けながら自分の考えを書いている。(ワークシート・発言)
2	<p>5 学習の振り返りを行い、次時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時からは、宮沢賢治の作品の中から一つを選び、ブックポスターを作ることを伝える。

(4) 板書計画

宮沢賢治の生き方や考え方に対して自分の意見を書こう。	その他	宇宙を支える小さな命となる	理想的な世界	まことの幸せ	<p>宮沢賢治の作品にこめられた賢治の思いや願いについて話し合おう。</p> <p>筆者からみた「宮沢賢治」</p> <p>○ 自分の理想とする世界を求めて激しく燃え続けた、太陽のような人。</p> <p>○ 宇宙にあるすべてのものが仲間になることを願い、だれもが幸せになれる新しい世界を求めて、自然と心ゆくまで語り合う独自の文学を作り出した。</p>
		世界が全体に幸福になる	自然と心を通わせる	農民たちの幸せ	